第9弾

ちょっと趣向を変えてみました

ＹＡ担当ホラー談義

M「開架書庫に本を取りに行くと、誰ともすれ違わない。あれ、どうしてだろう・・・。一本道のはずなのに。番号札だけは減っている。手に取って夜な夜な数えてみる。いちまーい・・・にまーい・・・」

Ｆ「図書館怪談ですか！？こわいよーー！」

Ａ「もう。内輪ネタで盛り上がってる場合じゃないですよ。今回は特定の本ではなくホラー全体について対談しようというお話でしたよね？お２人はホラーについてどのような印象をお持ちですか」

Ｆ「私はホラーは苦手です！今回も泣きながら本を読んでPOPを書きました」

Ｍ「私結構すきー。でもリングは怖くて途中で本を放り投げたわ。あれ絶対原作の方が怖いよね。小説に比べたら映画の貞子なんてコメディよ！」

Ａ「日本のホラーってほんとに怖いですよね。派手さはないですけど」

Ｍ「話がよくわからないまま終わるんだけど、後で考えたらめっちゃ怖いやん！って震えが来るのが多いわね。想像力を高めさせてくれるのがいいところかもね」

Ｆ「外国はどうでしょう。悪魔とかでしょうか？」

Ｍ「憑依とか多いわね。エクソシストは怖かった～。外国映画は演出が派手で怖い。」

Ａ「私は怪談が好きなんです。なので今回の展示でオススメは怪談えほんです！」

Ｍ「笑顔で言わないでちょーだい。シリーズものなのよね」

Ｆ「作家さんがそうそうたる顔ぶれですね。名前を見るだけで怖いような（泣）」

Ａ「小野不由美さんの『はこ』が怖かったです。カワイイもの好きな方は注意」

Ｆ「京極夏彦さんの『いるの いないの』も怖かったです・・・」

Ｍ「あれは絵が怖い。子どもが読んだら泣いちゃうわよ！」

Ａ「ところでお２人はないんですか？恐怖体験みたいなこと。私は金縛りぐらいしかないです」

Ｍ「犬が壁に向かって吠えてたときは怖かった」

Ｆ「あ、私小さいころおばあちゃんの幽霊を見たことありますよ（ニコリ）」

Ｍ「怖！それ本物じゃない！」

Ａ「Ｆさんの新たな能力が・・・！！」

Ｆ「フフ。では紙面も尽きてきたので終わりますか。ホラーが苦手な担当者のためにオススメ本など教えていただけると嬉しいです。もちろん恐怖体験でもOK」

Ａ「恐怖のポストになったらどうしよう・・・。投稿、お待ちしてます！」

726.6 ナカ

Ｅマチ

小野不由美作・nakaban絵　岩崎書店　2015年
京極夏彦作・町田京子絵　岩崎書店　2012年

Volume.14

ＹＡ通信

ホンダラケ

H28.08.01.

「ホラーはやめて！」と投稿してくれた方、ごめんなさい。
http://sanda-city-lib-ya.sblo.jp/

帰ってきた ホラー特集

冷たい本、あります。2

この季節がやってきました。昨年度大人気だったホラー特集の再来です。
ホラー苦手な担当者も泣きながら怖い本を読んでPOPを書きました。
我が身を削る思いでございます。

営繕かるかや怪異譚　小野不由美　著　角川書店　F/オノ　2014年刊

誰も使わない奥座敷の襖が、
何度閉めても――――開いている。

私、正直に申しましてホラーは大の苦手です。避けて通りたいです。しかし「これは短編集だから大丈夫！」とＭ先輩に薦められて読んだところ……引き込まれました。簡単に言ってしまえば劇的ビ●ォーアフター・恐怖版。障りがある家、怪異が起こる家の問題を、リフォームで解決していくわけです。話の前半は怪異現象の描写に背筋が凍りますが、それをあざやかに解決する営繕屋の手腕に、ほっと胸をなでおろせますよ。

ホンダラケとは

本誌は、読者の身も心も「本だらけ」にしてやろうという心意気から生まれた中高生向け小冊子です。
本誌に登場する本は全て三田市立図書館本館のＹＡ（ヤングアダルト）コーナーでご覧いただけます。（もちろん、大人の方もお読みいただけます）
２か月に１度、年６回発行予定です。
皆様が手に取りたくなる誌面にしてまいります。ご期待ください。

青春読書記

～三田学園図書委員会より愛をこめて～

今月のテーマは「ファイト！」。みんな日々戦っているのね～。

「わたしたちはまだ、その場所を知らない」

小池昌代：著　河出書房新社　2010年刊

F　コイ

詩人が書いた本作は小説というより詩だ。言葉の選択、間、文末、全てが詩として作中を漂い響き合い読者に突きつけられる。

詩に恋する主人公ミナコと級友ニシムラ、昔作家を志した阪口先生。学校内の陽の当たらぬ場所に立つ彼らの実体のない孤独、不意に現れる身の置き所のなさ。私自身にもあるそれらが、詩を読む三人の心を通して浮かんでくる。

終盤、かつて詩を朗読した陽の当たらぬ場所で三人が見るものは現実そのものだ。読み終えることに罪悪感を覚えるような一冊だった。詩がどこへ行くか、誰もまだ、その場所を知らない。

ホンダラケは皆様の投稿をお待ちしております。
YAコーナーに用紙・ポストがございますので、
おすすめ本や本誌の感想・要望などお寄せ下さい。

リサイクル予備軍

～なぜ君は借りてもらえないのか～

ライラエル -氷の迷宮-

ガース・ニクス:著，原田勝:訳
主婦の友社　2003年刊

933/ニク

この本が借りられない一番の要因はズバリ『２巻だから』でしょうな。調べてみたら所蔵が４冊あるにもかかわらず、ここ３年どの本も貸出ゼロ。本館の本に至っては５年間貸出ゼロ！　選ばれし者にしか見えない魔法でもかけられてるんでしょうかね？
この『古王国記』シリーズ、第１巻が「サブリエル」、第２巻がこの「ライラエル」、第３巻「アブホーセン」で完結のファンタジー。１巻とは主人公が違うので、この「ライラエル」からでも問題なく読めます。読みどころは、とにかくすごい臨場感！　死者の世界から出てきてしまった死霊を相手に戦うシーンは、かなりぞっときます。指で描くマークやベルの音を使って戦うなど、個性的なファンタジーが好きな方にぜひぜひおすすめしたい一冊です。

新着本Pick Up

943/フン

ゴーストの騎士

コルネーリア・フンケ　著　浅見昇吾　訳　WAVE出版 2016年刊

母親の再婚相手に対する嫌がらせをやり過ぎて、寄宿舎に入れられてしまった（と思っている）11才のジョン。しかし、学校で自分だけに見えた幽霊に襲われる！美少女・エラの助けを借りて、中世の騎士を呼び出し、幽霊を退治してもらうものの、どうやらジョンの先祖にまつわる因縁が原因？一難去ってまた一難な展開に、最後までドキドキです！

ＹＡ新着本

請求記号	タイトル	作者名
314.1/16	投票に行きたくなる国会の話	政野　淳子
726.1/16	学べるマンガ100冊	佐渡島　康平
F/セナ	神さまは五線譜の隙間に	瀬那　和章
F/ナカ	金色の流れの中に	中村　真里子

執筆者の腕がひたすらに試される名作本コラム

『幽霊塔』江戸川乱歩

カラー口絵・宮崎駿　岩波書店　2015年刊

Fエド

舞台は長崎県のとある山裾にある古風な西洋館。かつての主人の怨霊や殺人事件の犠牲者の幽霊が出るという言い伝えがあり、幽霊塔と呼ばれていた。叔父がその屋敷を買い取ったため下見に訪れることになった青年、北川光雄はそこで恐ろしいほど美しい女、野末秋子（のずえあきこ）と出会う。一目で秋子に惹かれた光雄だったが、知れば知るほど秋子には尋常ではない秘密があるように思われ・・・。彼女はなぜ幽霊塔にいたのか。秋子とは何者なのか。そして次々と起こる怪事件。主人公とヒロインのロマンスや幽霊塔の謎など、ドキドキ、ワクワクしながら一気に読み進めることができます。宮崎駿さんの描く幽霊塔のイラストも必見。古めかしくも美しい世界観にどっぷり浸かってみて下さい。